令和２年度　函館市総合教育会議　会議録

１　日　　時	令和２年１１月２０日（金）　午前１０時００分
２　場　　所	市役所８階　大会議室
３　出 席 者	【構成員】 工藤市長，辻教育長，藤井委員，小葉松委員，須田委員，神田委員 【事務局】 堀田生涯学習部長，松田学校教育部長，吉本生涯学習部次長， 東出管理課長，大山教育指導課長，大室教育政策課長 【発表者】 奥崎北中学校長，鈴木昭和小学校長
４　欠 席 者	なし
５　傍 聴 者	２名（報道関係者）
６　次　　第	１　開会 ２　協議事項 (1) これからの学校づくりを支える人・もの ア　説明「教育委員会の重点取組事項について」 イ　事例発表１「北中学校のＩＣＴを活用した取り組みについて」 ウ　事例発表２「昭和小学校の働き方改革の取り組みについて」 エ　意見交換 (2) その他 ３　閉会

１　開会

■大室教育政策課長

ただいまから，令和２年度函館市総合教育会議を開催いたします。

私は議事に入る前まで進行役を務めさせていただきます教育委員会学校教育部教育政策推進室教育政策課長の大室でございます。よろしくお願いいたします。

それでは，次第の２の協議事項に入らせていただきます。函館市総合教育会議の運営に関する要綱第３条の規定に基づきまして，会議の進行を，市長にお願いしたいと存じます。市長，よろしくお願いいたします。

２　協議事項

■工藤市長

おはようございます。令和２年度，２０２０年度の総合教育会議です。本来ならもっと早く開かれていたのだろうと思いますが，新型コロナウイルス感染症の影響で，本日の開催となったのだろうと思いますが，設定した日があいにくの日でありまして，今，東京や札幌も新型コロナウイルス感染症が広がり，日本中とりわけ札幌圏中心に北海道でもこれまで以上の感染状況であり，最近は日に日に，毎日感染者の数が最多を更新していくという事態になってきております。函館市も，ご承知のように昨日１４名の感染者が一気に出ました。１日

の感染者の発表数としては過去最多です。累計で５０名ほどですが，うち半数は，すすきのの飲食店にいった１名から発生した市内の飲食店のクラスター関連で，また直接飲食店に行ったわけではないけれども，感染した人と仕事の関係での打ち合わせ等で感染して，それがまた次の感染を広げて，さらに広がって，というようにだんだん読めなくなってきている。今のところ感染経路を追えていますが，これ以上拡大していくと，追いきれなくなってくるというギリギリの事態になっています。ここから発生したものを抑えきれば，その後は単身赴任の人が石狩に帰って，感染して戻るなど，家庭で収まる範囲で何とか収まるのではないかと思っていますが，今の段階ではその見極めがついていないところであります。先日１７日に新型コロナウイルス感染症対策会議があり，いろんな取組を進めております。昨日も，平井副市長が渡島振興局長へ出向き，函館においても，病院はまだ満床ではないですが，これ以上増加してくると病院で収容しきれなくなるので，軽症者をホテル等に移動させるため，北海道にホテルの用意を頼んだのが，テレビで放映されていました。また，昨日の夜，職員が３０班体制，６０人ほどで本町・五稜郭地区と大門・駅前地区の飲食店を啓発活動で回ったようすが，今朝報道されていました。市としても，いろいろ取組はしていきますけれども，やはりもう行政だけでは抑えきれず，市民の皆さん一人一人，あるいは事業者の皆さん一人ひとりが心掛けて新しい生活様式を実践していただく，そして，感染を拡大しないように注意していただくことが是非とも必要です。

そのような中，学校も緊急事態宣言の頃に臨時休校を実施したり，あるいは学校自体で感染者は出ていませんが，だんだんと，先程申し上げたように，飲食店から若い人が感染して，若い人が職場やあるいは家庭に戻ってそこでの感染になっていくのが当然予想されるわけでありまして，そうなると，子どもも巻き込まれることが予想されます。あるいは学校の先生も巻き込まれることが予想される。そこで，十分学校でも子どもたちの健康状況や子どもの家庭の状況等にも注意していただいて，感染拡大防止のための校舎の消毒やあるいは換気など，そういうことを徹底してもらいたいと思っています。

本日はこれからの「学校づくりを支える人・もの」というテーマで総合教育会議を始めていきますが，このところ「教員の多忙化」がずっと言われております。人材を育成していく上で，教員の皆さんが，ある意味余裕のある形でやっていかないと上手くいかない，たいへん疲れた先生方が学校現場で子どもを指導するとなると，いい教育が出来るわけがないということでございまして，私は市長になってからずいぶんと，相当の予算は積極的につけたつもりではありますが，まだまだ不十分なものがあると思っております。本日は新型コロナウイルス感染症が拡大する中で，「一人一台端末の活用」や「働き方改革」などの具体的な取組について，直接，学校現場の皆さんから話を伺いながら，協議を行いたいと思います。コロナ禍ではあります。それはそれとして，函館の教育の向上のために，短い時間ではありますが，皆さんと活発な議論をしていい会議にしていきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

それでは，次第に沿って議事を進めます。協議事項の（１）これからの学校づくりを支える人・ものについて説明してください。

■松田学校教育部長

はじめに，教育委員会の学校教育に係る，令和３年度の重点取組事項（案）について説明させていただきます。お手元の資料Ａ３横のカラー版をご覧いただければと思います。教育委員会といたしましては，今年度におきましても，資料上段にありますように，「すべての

子どもの学びの保障」と「教育環境の充実」，この２点を学校教育分野における重点事項としての柱として進めてきております。来年度におきましても，引き続きこの２点を重点事項の柱として，取り組んでまいりたいと考えているところでございます。資料の構成ですが，１段目に各項目の目的，２段目に課題，３段目に主な既存事項，４段目に今後の方向性を記載させていただいております。２つの柱の概要について説明させていただきます。

１点目，左側の「すべての子どもの学びの保障」についてです。学力不振，不登校，貧困など，様々な環境等の影響により，困難を抱えている子どもたちの対応をはじめ，すべての子どもたちが等しく学び，資質や能力を伸ばすことができる環境を整備することが求められております。そのために，現在ＡＬＴや小学校外国語活動サポーターの派遣や，小学校における非常勤講師の配置，ｅラーニングの活用のほか，ＳＮＳを活用した相談体制の充実や，中学校を対象とした通級指導教室の活用，さらには就学援助の拡充などに取り組んでいるところでございます。今後につきましては，一番下の段になりますが，これまでの取組に加えて，今年度整備いたしました一人一台端末の効果的な活用などによる，一人一人の資質や能力を伸ばす取組，また，不登校対策に関する教職員研修や，相談体制の充実による不安や悩みを持つ子どもへの対応などにより，すべての子どもの学びを保障する取組を進めてまいりたいと考えているところでございます。

続いて，２点目，右側の「教育環境の充実」についてでございます。子どもたちが，先端技術の高度化などにより急速に変化する社会を主体的に生き抜くことができるよう，確かな学力など，生きる力を育む環境を整備すること，学校が家庭や地域と一体になって子どもを育む環境を整備すること，教職員一人ひとりが個性・能力を十分に発揮できる学校づくりを推進すること，などを通じまして，教育の質の維持，向上を図ることが求められているところでございます。そのため，これまで教職員の出退勤時間の客観的把握や，校務支援システムの導入，小・中学校への留守番電話の配置，部活動地域支援者の活用，コミュニティ・スクールの運用の推進や，学校施設の改修・修繕などについて取り組んできたところでございます。今後におきましては，学校における働き方改革や，コミュニティ・スクール，地域学校協働活動への支援などの地域とともにある学校づくりの推進，また，学校図書館の整備や，ＩＣＴ支援員の配置の検討などの学校環境の整備などにより，教育環境の充実を図る取組を進めてまいりたいと考えております。以上です。

■工藤市長

では次に，「北中学校のＩＣＴを活用した取組について」，説明をお願いします。

■奥崎北中学校長

北中学校の奥崎と申します。私からは，「学校のＩＣＴを活用した取組」について，事例を発表いたします。お手元の資料と，こちらのスライドをご覧ください。

今年の３月から５月にかけて，コロナ禍による学校の休校が続き，子どもたちや保護者がこれまでに経験したことがない事態に陥りました。終わりの見えない，引き続く休校に，学校では何らかの新しい手立てが必要となりました。そこで，最も注目されたのが，ＩＣＴを活用した学習支援でした。現在は，スマホ・タブレットの爆発的な普及によって，すでに本校では９割以上の生徒がこうした教材の視聴が可能な環境を持っていました。また，そうした環境がない生徒には授業を収録したＤＶＤなどを貸し出すことで，同じように学習できることがわかりました。また，国や民間レベルでも素早い動きがあり，無料で学校のＷｅｂページを作成できるＥｄｕｍａｐや，教科書の著作権を管理するサートラスという団体が立ち

上がり，コロナ禍の状況で，ＩＣＴを活用した教材を，子どもたちに提供できる環境が具体化していきました。特に，教科書を使った教材の配信は，函館市教育委員会の迅速な対応もあり，４月２８日から可能になりました。我々も本当に初めてだったものですから，大型テレビを使って，短い授業のように話すなど，試行錯誤をして生徒たちに動画を配信していました。生徒からは「不安の中，先生たちの顔を見られて本当に安心した，うれしい」といった感想が寄せられたところでございます。

学校が，休校から分散登校，平常登校と立ち直っていくに従って，少し先を見据えた動きも必要になりました。中止になっている参観日や，１０月に開催される学校祭をどうするのかという課題です。そこで目をつけたのが，「ライブ配信」という方法です。ライブ配信には，これまでの教材をあらかじめサーバーにためておいて，子どもたちに届けるオンデマンド配信と違って，いくつもの課題がありました。カメラや音声の調整，そして，配信用の信号を，携帯電話を使って安定的に送ることなどです。今年の一年生は，３月の卒業式も４月の入学式も，保護者の方々が参列できない式典となり，辛い思いをしている子どもたちです。なんとか，中学校でがんばる姿を保護者の元にお届けしたい，そういう思いで取り組みました。そして，一学期も押し迫った７月３０日に，なんとか，授業参観をライブ配信で行うことができました。頂いた感想の中には，「いつもは後ろ姿しか見えない参観日ですが，今回は前からしっかりと子どもの顔を見ることができました」といったウイットに富んだ，素敵な感想などを頂きました。

そして，いよいよ学校祭への取組です。今回は，密を避けるために，生徒は教室でテレビを使って視聴，保護者はＹｏｕＴｕｂｅのライブ配信で視聴する形をとりました。今回の配信は，午前・午後合わせて５時間半にも及ぶため，機材の耐久性の確認や，お昼に混雑する携帯の回線状況など，考えられる不具合を一つ一つ回避していく作業となりました。これから，実際に配信された北中学校の学校祭のビデオを少し短くしてお届けしたいと思います。お願いします。

―ビデオ始まり―

オープニングの生徒会の演劇です。合唱に入る前に自分のクラスを紹介するビデオをこのような形でつくっています。新型コロナウイルス感染症の影響で制限されることが多かった日々ですけれども，本当にうれしそうに子どもたちは一生懸命にやっています。中学校は学校祭でよく合唱をしますが，今年は無観客で演奏して，子どもたちはテレビで教室から視聴して，保護者へはＹｏｕＴｕｂｅで配信という形をとりました。最後を飾る，ブラスバンドの演奏です。これも全部，安全距離を保って２m以上離れるように配置しています。

―ビデオ終わり―

こうした苦労の末に，ようやく保護者の皆様にお届けできた学校祭でした。アンケートでは次のような回答をいただきました。

・コロナの状況下で，今年ベストの対策だった。

・体が不自由で，会場に行けない祖父母も一緒に見ることができた。

・当日観に行けなかった親にとっては，夜や翌日に観られることはとてもありがたい。

今回の取組を通して，学校が気がついていなかったことに，たくさん気がつくことができました。

今，北海道では，新型コロナウイルス感染症拡大の第三波が懸念されています。北中学校では，学年に複数あるクラスの一つが学級閉鎖になっても，残ったもう一つのクラスの授業

をライブ配信で届けることによって，学習の遅れや，不安の払拭に役立て，子どもたちの学びを保障しようと考えています。学校によっては，ライブ配信のための新しい機材が必要になり，校内ＬＡＮの設定変更が必要になるなど，すべての学校がすぐにできる取組ではありませんが，様々な可能性を秘めた策だと思っています。

最後に，ＩＣＴを活用した教育の未来，「ＧＩＧＡスクール」についてです。ＧＩＧＡスクールは，この度のコロナ禍により，一気に前倒しでの実施となり，現在，学校への整備が進められている事業です。高速な校内ＬＡＮの整備と，一人一台の端末の導入で，今，学校の教育が大きく変わろうとしています。こうした新しい機材を使いこなしていくためには，遠隔で課題を出し，採点したり，離れたところにいる子どもたちが共同で資料を作ったりできるような，新しい学習を支援するシステムが重要になります。北中学校ではＧｏｏｇｌｅＣｌａｓｓｒｏｏｍというネット上で使うサービスを用いて，どうやって一人一台の環境下で，学習を豊かに展開するかを研究しています。また，こうしたシステムは，不登校の子どもの支援にも利用することもでき，その可能性についても，現在，検証を行っているところです。

学校は，今，一人一台端末の導入で，大きく変わろうとしています。電子教科書の利用や，予習・復習用の動画教材の利用にとどまらず，例えば，ＴＶ電話による家庭訪問や，写真やビデオをふんだんに使った電子学級便り，タブレットに入った通知表，都道府県を越えた学校間での学びあいなど，これまでには考えられなかった取組が，今後，実現しようとしています。

しかし，一人一台端末を上手に活用していくためには努力が必要です。函館の未来を担う子どもたちに，将来必要となる資質・能力をしっかりと身につけさせるためには，臆することなく，猛勇を振って，この荒波に船出する教育現場でありたいと思っています。

市教委におかれましても，研修の実施や先生方をサポートする体制などについて，今後も一定期間，引き続きご支援いただければと考えております。それでは，これで，北中学校のＩＣＴを活用した取組について，報告を終わります。

■工藤市長

どうもありがとうございました。北中学校のＩＣＴを活用した取組について，説明していただきました。

続けて，昭和小学校の方から働き方改革の取組について，鈴木校長先生，よろしくお願いします。

■鈴木昭和小学校長

昭和小学校の鈴木と申します。本日は，本校の働き方改革について，外部人材の活用の視点からお話させていただきます。

昨年度から業務改善に取り組んでおりますけれども，改善の根幹に据えたのが，子どものための改善だということです。それはすなわち，学校本来の役割をしっかりと見つめ直す作業と考えました。学校という場所は，たくさん子どもたちが集まってきます。ですから，安心安全であり，なおかつ学習指導要領にのっとり，健全な人間関係，学習環境の中で，人格形成をする場でなければいけません。これをしっかり踏まえた上で，３つの視点から改善を図りました。

１点目は，何といっても量の削減です。２点目は先ほど申し上げましたけれども，本来業務かどうかをしっかり見極め，そしてそれらを通して，職員の心にゆとりができるように，

そこが大事だと思いますが，この３点です。もちろん，個ではなく，チーム学校としての取組をいたします。

そして，いろいろと改善策を考える前に，まず私が職員にさせたことは，お互いどんなことを困っているのかを全部吐き出させようと，吐き出す作業をしました。そして，出てきた課題を整理した上で，本校の場合は，さらに業務を細かくするということではなく，包括的・弾力的な改善とする方法に舵をとりました。簡単にいいますと，いつ，どこが，どのくらい忙しくなるのかがはっきりわかりましたので，分掌などの枠を取り外して，忙しい時にはサポートする体制づくりに取り掛かりました。もう１つは，外部の関係機関や人材を十分に活用する。この２本立てです。

できることから直ぐに取り掛かりましたが，ただ，そんな折に新型コロナウイルス感染症が起こりました。当然のように，本校でも，感染予防に力を注がざるを得ない状態になり，支援員さん方は特に朝からフル回転状態です。

この写真を先に見ていただきたいのですが，こちらは給食のシーンです。子どもたちは楽しそうに食べていますけれども，これを準備するのはすべて大人の仕事になりました。また，ミニトマトの観察ですが，いつもでしたら「はい，下に行って観察するよ」で済みますが，一人ひとり個別に，これだけの配慮をしなくてはいけなくなりました。

本校も感染予防はしっかりとできましたが，子ども同士が関わり合う教育活動に対して，消極的になったものですから，６月７月にかけて登校渋りの子どもがかなり増えました。それから，登校している子どもたちも，遊べないですし，ワイワイとおしゃべりができないものですから，やはり笑顔も減りました。

そんな時に舞い込んできましたのが，函館市の函館っ子　学び・遊び応援週間です。正直に言いますが，その企画を見てびっくりしました。素晴らしい企画ですけれども，あの頃は自粛ムード一色だったものですから，大丈夫かなと。ところが，ふたを開けてみましたら全然予想と違いまして，久しぶりに人目を気にしないでグラウンドを走り回る子どもたちがいました。プールは，本校４コースとたいへん狭いです。ですから，この人数，高学年の人数だけでも，大賑わいです。５日間で延べ３９名という万全のサポート体制で監視していただきましたので，心配された感染もありませんでした。

この取組で私は本当にハッと目が覚めたような気持ちがしました。こういう時だからこそ，きちんと，どんな形を変えてでも，学校本来の役割を果たしていかなければいけないのが，学校じゃないのかなと強く思いました。

そこで，２学期に入りまして，すぐに始めたのが図書館の改革です。もちろん，人数制限等もした上で，外部人材である学校司書の方が，図書委員会の子どもだけでもきちんと整列して貸し出しができるように，このように指導もしていただきました。また，スライドの写真の上が教師のお薦めコーナーで，下が子どもたちの，図書委員のお薦めコーナーとなっていますが，おわかりでしょうか。先生方がお薦めしているのは本がずらっと残っています。子どもたちの方が，宣伝がとても上手なので，今もそうですが，いつでも貸し出し中の状況です。学校司書の方が図書委員の自主的な活動を推し進めてくださったので，この３か月の本の貸し出しは，去年の倍です。だいたい１日５０冊以上の貸し出しが続いております。

ただ，先ほど申し上げましたとおり，６月から登校渋りの子が本当に目に見えて増えました。そこで，学習指導員の方には，学習のサポートだけでなく，そういった渋りの子どもたちにもしっかり寄り添ってもらいました。これで一番大助かりなのが，担任です。それか

ら，子どもたちの方もきちんと自分を見てくれる人がいるということで，ストレスが減ったのだと思います。登校渋りの子どもが減っていきました。やはり一人ひとりの子どもに，複数の目でしっかり向き合うと，クラスに落ち着いた雰囲気が生まれるのだなと，改めて思いました。

こういった登校渋りや課題を抱えているお子さんは結構いますが，その指導に当たるのは結構ハードですが，それと同じくらい担任にとっての負担であるのは，学級事務です。スクール・サポート・スタッフの方，９月に配置されました。スライドの黒文字部分にあるようにすぐに印刷ですとか，採点などをお願いしましたところ，一週間もしないうちに，赤文字部分にあるように，私がお願いした以上のことをしてくださっています。スクール・サポート・スタッフの方の日常的な仕事で，一番多いのが採点です。クラス３０名おりますので，低学年の子どもでも少なくても３０分はかかります。それから，印刷業務においても，一種類だけの印刷というものはなく，必ず学年分あり，その後，裁断，そして付箋を付けて，あっという間に２０分かかります。また，清掃も，特に低学年は，全部教師がやりますので，お手伝いしてもらった担任は１５分間違いなく節約できます。消毒作業も，玄関から１階から３階まで，水回り，３０分はかかります。フリーの教員にやってもらっていましたが，今は全部スクール・サポート・スタッフの方にお願いしております。その他にも，教材づくり，行事の手伝い，どれ一つとっても時間のかかるものばかりです。スライドの写真ですが，特別支援学級の児童が買い物の練習に使うためのお金です。５円玉です。これを丁寧にラミネートするなどして作っていただいております。スクール・サポート・スタッフの方は，子ども，それから教師のことを第一に考えてくださって，本当に仕事が丁寧です。今では学校にとってはなくてはならない存在になっています。

外部人材の方々が配置された成果ですが，先生方が，外部の方々がいかに大切かを改めて認識しましたので，積極的に活用するようになりました。その外部の方々によって生み出された時間は，同じ３０分でも違います。貴重な時間です。つくっていただいた時間として，先生方はその時間を教材研究や子どもたちと向き合う時間に使うようになりました。これが学校にとってどれだけプラスかということを，なかなか数値で表すのは難しいですが，教員が本来業務にしっかりと打ち込めていた。これがすごい成果だと，私は強く感じております。ただ，今後に向けてということで，ぜひ，来年度も外部人材の方々を継続的に配置していただきたいという，切なるお願いでございます。また，これは我々が工夫しなければならない点ですが，外部人材の方々と勤務時間の体系が我々と違うものですから，なかなか打ち合わせをもつ時間がありませんので，その時間の確保が１つ課題です。さらに，学校間の情報共有や外部人材の方同士の交流，研修の場をもう少し増やしてあげたいと思っております。

終わりになりますけれども，学校は今，働き方改革，さらには新型コロナウイルスという全く予想をしていないものが出現し，大きく変化しなければならない状況にあります。ただ，このタイミングは逃してはいけないとも思います。今までと大きく変わって当たり前なんだという意識付けです。

今後も，配置された外部の人材の方と共に，一体となって，地域と連携しつつ，教育活動の質を高めるように努力してまいります。本日はこのような場でお話をする機会を与えていただきまして，本当にどうもありがとうございます。これからもご支援のほど，よろしくお願いいたします。

■工藤市長

鈴木校長先生，どうもありがとうございました。これからの学校づくりを支える人・ものについての一連の説明と報告が終わりました。こうした取組にご意見があればお伺いしたいと思います。どなたかご意見いただけますでしょうか。

■辻教育長

今日は柱を２つ，ＩＣＴと外部人材ということで説明をしていましたが，もともとは新型コロナウイルス感染症に関して，このように大変になると思っていなかったので，今日的に重要だろうという柱で設定しましたが，結果的に，このコロナ禍において，どのように役立ってきたのかという点が，発表されたと思います。私としては，教育委員会事務局では，折々に校長会の幹部の方々と情報交換をしてきましたから，だいたい学校はこのような状況かなというのはわかっていたつもりでしたけれども，今，生の声を聞いて，より詳細がわかりました。私たちも，教育委員会の会議の折に，教育委員さん方には今学校はこうなっていますというようなお話はしてきたつもりでしたけれども，今のお話を踏まえて，いろいろまた聞きたいことも出てきたのではないかと思いますので，ぜひ委員の皆様方には，より詳しく聞いていただければと思います。

■工藤市長

これからはＩＣＴと働き方改革を分けて，話をした方がいいかなと思います。まずは北中学校の奥崎校長先生の方からお話をいただきましたけれども，ＩＣＴを活用した今後の学校の取組等で，皆さんからご意見があればと思いますが，現在，端末が一人一台，あるいは校内ＬＡＮなど，急速に条件が整いつつあります。今まで非常に，函館だけでなく，日本の教育だけでなく，日本の社会自体が世界に比べて非常に遅れていました。発展途上国にも遅れをとって，アジアの中でも日本より進んだ国はたくさんありまして，日本は結構遅れていたと感じますが，これからの子どもたちにとっては，情報をいかにして素早く入れて，そしてそれを使っていくか。そしてそのような機器の取り扱いは，絶対に必要で，学校を卒業してから働く上でＩＴの機器を使いこなせることが必要になってきます。プログラミングも含めて。

もう一つは英語を話すこと。これはもう国際的に，例えば，大きな企業でも小さな企業でも，函館にいたらあまり感じないかもしれないけれども，やはり企業人として活躍していくためには，英語力と情報機器を使えることは，絶対条件です。これがないと，少なくとも東京，あるいは世界を股にかけて活躍することは全くできません。そういう意味では非常に大事だと思いますが，幸いにして，さっき言ったように，いろんな条件が急速に進みつつあり，私としては非常にいいことだなと思っていますが，現状，そしてまた，これからの取組について，ご意見がいろいろ皆さんあるだろうと思いますので，どうぞ，手を挙げて，話していただいて。

■藤井委員

お恥ずかしい話ですが，私の勤務先で，Wi-Fi環境が足りないところがあったために，奥崎校長先生にお願いして，何度も来ていただいて，環境設定やパスワード設定などをやっていただいて，学生がWi-Fi環境の中で学習できる環境づくりをしていただきました。当時，春休みでしたが，奥崎校長先生が北中で，このようなことを計画されている話を伺いました。その後もいろいろ話を伺っていましたが，子どもたちのためにどんどん取り組まれていますし，実際私もそうですが，やはり機械なので，音声が流れないとか，途中で止まってしまう

とか，いろんなトラブルが必ずありますが，それらを克服して，このように配信等につなげたのは素晴らしいと感じました。

また，ある中学校で，久々にスポーツ大会に代わるものを１０月にグラウンドで実施していまして，見に行きましたら号砲と同時に子どもたちの歓声が聞こえて，久々に子どもの歓声が聞こえたと，先生方の中で涙ぐんでいる先生もいらして，このライブ配信をもし北中のようにできたら，たくさんの保護者が感動を分かち合えたのかなと思って，改めてこの北中のライブ配信等が，もっと多くの中学校に広がればいいなと強く感じたところです。

一つ質問ですが，昭和小学校の発表にもありましたように登校渋りや，不登校になってしまっている子どもはやはり一定数いますが，このような子どもたちに対して，今後，例えば，北中での蓄積された授業映像の活用の可能性については，いかがでしょうか。

■奥崎北中学校長

今，不登校の子どもたちへの対応等についてどうだろうかと，ご質問を受けました。資料の１３ページ，クラウドサービスの利用をご覧ください。実はその中，１０個四角が並んでいますが，上の３つ，字が隠されているところがございます。これは実は，不登校の子どもとのやり取りをするために，特別に作られているクラスです。１つのクラスに１人の子どもで，子どもとの間で，チャットのやり取りをしたり，それから，ビデオ会議もできるようになっています。子どもから何かこういった課題がありませんかという連絡が入れば，もちろん直接会いに行ってお渡しすることもありますが，これを介してお渡しすることもできるようになっています。ただ，ほとんど不登校の子どもっていうのは，顔を合わせてお話すること自体が不得意なので，テレビ会議を入れたからといって，急に改善するわけではないです。

ただ，やっぱり今まで積み重ねてきた子どもたちへの支援，学校での人と人とのコミュニケーションをきちんと踏まえながら，こういった機材を使っていくべきだと考えています。

■工藤市長

どうもありがとうございます。他に，はい，小葉松委員。

■小葉松委員

たいへん素晴らしい北中の取組ですが，たぶん，詳しい先生がいたからここまでできたのではと，たぶん皆さん指摘されるのではないかと思います。これから子どもたちも端末を持つようになり，どの学校でもなるべく有効に活用するとなると，それこそ，そこにＩＣＴに詳しい外部人材を，このあと積極的に取り込んで，子どもたちが積極的に使えるように，また，ＩＣＴアレルギーの先生もたぶん一定程度いらっしゃるのではないかと思いますので，外部人材をいかにＩＣＴの活用を活かすのに使っていくか，ということはこれからすごく課題としてあるのではないかと思いました。

■工藤市長

当然ですよね。私も１年くらい前から，市役所の職員について，これから人口も減っていって，市役所の職員も増やすわけにはいかない，減らしていかなきゃならない。辞めた職員が１００人いて１００人採用したら，一回に一人雇うと４０年保障しなければならない。４０年後の函館の人口は今の半分くらい，たぶん１２～１３万人くらいになっているだろうという中で，その時に今の人数を，皆を雇用することはできるわけがない。ただ公務員は途中で首を切るわけにもいかないので，今から減らすように言っています。減っていく人員をＩＣＴやＡＩの活用で埋めていくということを今やっています。

今，小葉松委員がおっしゃったように，先生方でも年齢が若い人はやりやすいだろうけど，それなりの年齢の先生は抵抗もあり，あるいはついていけないということもあるだろうと思う。だからといって，つまはじきにするわけにいかない。このＩＣＴの分野は，なかなか学校の先生でも市の職員でも，限られています。オタクではないですが，好きな人で，自宅でもやっているような人間はやれますが，それで仕事をしている人は，パソコンぐらいはできるけど，それ以上のことはなかなか広がっていかない。ＩＣＴの人材は，函館にもいっぱいいるし，未来大学の学生でもいいわけですし，あるいはゼミでもいい。そのような協力をもらって，お金も払ってもいい。そういうものを予算化して，積極的に取り組んでいく。

そして，もう一つは，学校の子どもの方が，上達が早いです。結構家でやっている子どもたちも多いだろうから。学校の先生方に，どうやって研修してもらうかということが必要なのかなと思います。研修の場を設けて，そこから，先生にまず馴染んでもらう，知ってもらう。そういう先生が多く出てくることが必要であって，学校に一人しかいません，二人しかいませんで，たまたまそういう人がいなかったら，さっぱりわからないということではだめです。そういうことを広げていくことが教育委員会の役割じゃないのかなと思っています。

他に，皆さん。はい，須田委員。

■須田委員

今回の取組で，学級紹介だとか，文化祭を企画するというコンテンツを作っていくことが，子どもたちにとっても，すごくいい経験になったのではないかなと思います。

今，実は，ゲームも成長企業といわれていますけれども，プログラマーという職業がすごく脚光を浴びていて，これからそういう仕事がどんどん増えていくのではないかといわれていますので，そういうものとのかかわりを持つ，興味を持つこととしても，すごくいい取組だったのではないかなと思います。

今，新型コロナウイルス感染症拡大の第三波が起こっていて，新型コロナウイルス感染症に限らず，こういった感染症が起こると，今後また，オンラインで授業を受けるだとか，そういうことも将来的には出てくるのかなと思いますが，聞くところによると，今，函館でも８割くらいの家庭は，家庭でもオンラインの環境は整っていると聞いてはいましたが，今回，こういったことをやってみて，おおむね賛成ということではあったとは思いますが，やれない家庭もあるでしょうし，反対意見等もあったのかなと思いますが，そのあたりはいかがだったでしょうか。

■奥崎北中学校長

今回のこういった形での教材の提供について，まず，提供する前に一度調査をし，それから実際に提供を続けている中でも，調査をしております。北中学校の場合は，１年生６４名いる中で，どうしても見られない生徒が４名だけです。そして，２年生８８名いる中で，１名。それから３年生７１名いる中で，１名。なので，比較的そのような環境については，ほとんどの家庭がある状況です。そして，ないところについては，やはりそのことがすごく子どもの負担になる可能性があるので，きちんとＤＶＤを貸すだけではなく，余剰のＰＣを貸し出す，あるいはパソコン室を開放する，いろんな手立てを講じて，子どもたちには負担を感じさせないような形でなんとか展開しようと取り組んでいるところでございました。

■須田委員

こういったものに対しての反対意見などもございませんでしたか。

■奥崎北中学校長

そのことについては，たぶん新型コロナウイルス感染症が起こった時に不安の方が大きく，学校はそのようなことに取り組むんだ，と逆に保護者の方からは驚きのような形で，比較的肯定的な意見でした。今おっしゃいました，反対意見などそういった苦情は一件も入っておりません。

■須田委員

そうですか，ありがとうございます。

■工藤市長

はい，他にありませんか，神田委員。

■神田委員

私は保護者の立場からお話させていただきたいと思います。私の子どもは小学校６年生ですが，やはり日常では家ではタブレットなど，ＩＣＴ機器をもう本当に日常の一部として活用しています。調べものをしたり，勉強の中でも使うことがあります。学校でそれを使うかといったら，今のところないですね。そこで，家では結構使っているけど，なかなか学校ではそういうことがないので，なんとなく違和感を覚えていましたが，でも，もしこのＩＣＴが進み，タブレットが鉛筆やノートの一部のようになって，本当に子どもたちの生活の一部の文具のような形になって，それが日常になった時に，保護者は子どもたちがそういうＩＣＴなどを使うことに対して，違和感といいますか，ちょっと恐怖を覚えているところがありまして，学校が正しい使い方を，先進的な，子どもたちのためになる使い方を教えていただけたら，保護者も，今後，ＩＣＴというのはこういうものだ，とてもいいものだ，という肯定的な考え方になっていくのかなと思っております。そして，学校が先導してやっていくことで，子どもたち，そして地域の方も，徐々にアナログなところから，私たちがどうしてもアナログだからできないところがＩＣＴによって，地域の方にも学校の情報が提供できる，保護者にも提供できる，ということが進んだらいいなと，この話を聞いていて思いました。

■工藤市長

はい，どうもありがとうございます。確かに，スマホも今学校に持っていくことを制限しているでしょう。それが解禁される時代がいずれくると私は思っていますが，私もガラケーでしたが，２・３年前にスマホにして，やれるのは電話とメールとライン，あと，一番使うのは検索です。議会の本会議中に，例えば何々の状況について，自分でも数値などがわからない時に検索をしたり，あるいは新型コロナウイルス感染症に関しても，これはどういう意味なのかということをすぐ検索できる。自分の部屋なり，車の中でもどこでも。これは非常に便利で，今までは家に帰ってパソコンで，ネットで調べなきゃならない。その場でというのはなかなかできなかったから，その場でできて，疑問がそこで瞬時に解決するので，非常に役に立つ。きちっとした形で使うと非常に役に立つだろうなと思います。だから子どもにも教育の現場でも，使い方がきちんとしていれば，授業中に，遊びではなくて，意味がわからないものなどをすぐ検索して，なるほどと思えるようになる。だからあまり規制ばかりではなく，日本の場合はどうも規制が多すぎるような気がしますが。もちろん正しい使い方とセットですが，こういうことも考えていく必要があると神田委員のお話を聞いて思っています。

先ほど，北中の奥崎校長先生の話を聞いていて，やはり学校をリードしていくのは校長先生なので，ＩＣＴの活用について，学校のトップの意識によって，いろいろ違いが生まれてくるなと思います。ただ，子どものことを考えるとそれであってはいけないわけで，校長会

等で意識の統一を図って，やりましょうという形で，教育委員会の方からきちんと言っていただく必要があるのかなと私自身は思います。市町村も首長の意識によってやることが全然違うので，多分学校も校長先生の意識によって，ＩＣＴを積極的に活用する学校と，全然進まない学校，いろいろ出てくるのかなと思いますから，ここは統一的にやっていただければなと思います。

そして，今，北中のご報告のような，このように進めている学校の情報が，まだ始めていない学校にきちんと伝わっていって，その良さや様々な効果を広げていくことを考える必要があるのかなと聞いていて思いました。ＩＣＴは，まだ学校や日本全体が，新型コロナウイルス感染症の状況の反面教師，反省にして，様々これから進められようとしていて，学校も取り組み始めたばかりで，今，試行錯誤かもしれませんが，様々やっていることが，コロナが収まったとしてもこの活用が止まることなく，そこで学んだことが，もっともっといい形に修正して，進んでいくことに絶対なるわけです。新型コロナウイルス感染症が収まったからおしまい，ということではないわけです。様々な可能性がありますし，子どもの教育の十分，有意義な道具となっていくと私自身は思います。ぜひ積極的に進めてほしいと思います。

改めてこのＩＣＴの点で，またご意見があればどうぞ。

■小葉松委員

オンデマンドのことですが，オンデマンドで要するに授業を見られるように，これはどのような単位で，市なのか町なのかそれとも道なのか国なのかわからないのですが，私の希望的な話ですが，義務教育の授業が，すべてオンデマンドで見られるようになれば，例えば，ついていけない子などが，わからなくなった授業を振り返りながら，分数の意味が解らなかったら，家に帰ってここのこの授業を見れば，もう一回同じことできるよとか。

■工藤市長

見逃した映画をビデオで見直すような。

■小葉松委員

そういうことです。ただ，学校はみんな進んでいってしまうので，数学や算数において途中で脱落しちゃった子は，そのまま進まれると全くわからない授業になってしまいます。とりあえず，この子だったらこの授業もう一回見ればいいというときに，図書館のように，どこかに授業の蓄積がされていたら，君はここを見てごらんと。あと，不登校でここから先全然授業を受けていないよという子は，ここまで戻れば，みんなと同じ授業に追いつくよ，卒業までこういう授業できるよ，というように。これは，市のレベルで考えることではないのかもしれませんが，いわゆる日本は習熟度別にはなっていないので，みんな同時に進んだ時の，もっと進みたい子もいれば，ついていくのが大変な子もいますので，そういうところにこのオンデマンド授業が，国全体として活かされたら，もっとわからないところを学び直したり，学校行けなかった分を振り返ったり，そういったところに使えるのにと思います。今，不登校もたくさんいますから，できることなら文科省などがもっと積極的に考えてくれると，１０年後はすごく明るいと私は思います。

■工藤市長

なかなかその子が学んでいた教室で，その先生が教えている授業を，全校すべて個別に視聴できるということは，なかなか厳しいと思いますが，全国標準で，例えば，数学のこの段階の授業というのがあるわけなので，みんなと毎日，数学なら数学，そのモデルの授業を一

つ全国共通でやると，学校で学んできて，聞き逃したとしたら，そのモデルの授業を見ることによって学べるとすれば，比較的簡単にできるのかなと。自分が知りたかった算数のこの部分，あるいは数学のこの部分を確認したい，ということであれば，自宅でそれができるということはやりやすいかなと。逆にそれは全国といわなくても函館市でもできるような，実現可能ですよね。この授業を映像にとって配信するというのは，なかなか手間もいろんな設備もかかるような気がしますが，やりようによっては，今小葉松委員が言ったようなことが，できそうな気がします。そうすると，復習や予習がしやすいかもしれない。事前にそれを見ていって，学校に行って学校の先生が教える。逆に「先生，モデルの授業と違いますよ」っていう生徒も出てくるかもしれない。いろいろなことを考えていただければと思います。

その他，はい，藤井委員。

■藤井委員

先ほど，市長もおっしゃっていましたＩＣＴの外部人材は，とても大事だと思います。実際に授業をライブ配信するための準備をすると３０分以上かかります。リハーサルして，それから授業をやって，それが終わったら機器の後始末をするわけです。そういう人材が学校に配置されると，教員や校長先生への研修，プラス専門的な人材がいると，働き方改革にもつながってくると思います。

■工藤市長

人材という意味では，函館には，未来大学だとか高専だとか，あるいはそういう企業も結構来ていて，そういう人材がいます。函館に進出しているＩＴ企業も出てきている状況なので，地方都市の中では，比較的そういう人材の協力を得られやすいのではないかと思います。様々工夫していただければと思っています。予算は財務部に要求してほしい。

他になければ，これで北中学校のＩＣＴの活用については終了します。

次に昭和小学校の取組として働き方改革について，皆さんからご意見等ございますか。

■辻教育長

鈴木校長先生に聞いておきたいことがありまして，先生方の風土は，何でも自分でやりたがるというのがあると思います。外部人材が入ると，すごく楽になる反面，そういう意識との闘いはどうですか。昔は，外から入るのを拒否するぐらいの風土すらあったと思いますが，そのあたりは最近の学校はだいぶ変わってきたかと思いますが，いかがですか。

■鈴木昭和小学校長

はい。もちろんそのような意識はございます。それで，教育委員会の学校教育指導監や，それから働き方改革の先駆的な役割を果たしているお隣の五稜郭中学校などから，春先にお話を伺ったところ，まずあなたが思っていることをどんどん進めたら失敗しますと言われました。先生方の思い，これを聞かないことには絶対に働き方改革は成功しません。３０分早く帰ったからといって，働き方改革が進むのではなく，心にゆとりができること，それから自分にとって良かったなと思うこと，ここをやらないことにはダメですよ，と何人もの方がおっしゃいまして，最初に申し上げましたとおり，はじめに先生方の困り感を全部，山ほど出させました。困っているから助けますと。すると，そういう考えの方でもいいですよと受け入れてもらえました。

■工藤市長

他に。はい，須田委員。

■須田委員
　似た話ですけれども，数年前に，学校の戸締りを点検して，最後に帰るのは教頭先生だという話もありましたが，未だにそんなことが続いているのですか。
■鈴木昭和小学校長
　はい。実は今，誰が何時に来て何時に帰ったか記録を残していて，また月４５時間以上の時間外勤務をしないようになっていますが，すみません，教頭は未だにやっております。これでもだいぶ勤務時間は減ったのですが。
■須田委員
　外部人材の配置について，授業だけでなく先生方の負担の多い，クラブ活動なども，外部人材を活用することに関して，これからますます期待しているところではありますけれども，低賃金であったり，ボランティアに頼ったり，そういう面もありましてなり手が不足しているというような話も聞いております。そういったなり手を，今後育てていくこともこれから必要なのかなと思います。函館市には高齢者大学などもありますので，そういうものを活用して人材を育成するなどもこれから必要になってくると思います。
■工藤市長
　他にありませんか。はい，藤井委員。
■藤井委員
　ちょっとお聞きしたいのですが，昭和小学校に算数のＴＴの先生は入っていますか。
■鈴木昭和小学校長
　入っております。
■藤井委員
　やはり有効でしょうか。
■鈴木昭和小学校長
　はい。習熟度別等できちんと基礎・基本の部分においてＴＴが入っているということはとても重要です。
■藤井委員
　実は中学校では函館市の予算で，家庭科など免許外解消の先生が教えているので，先生方は免許外の授業を教えなくていいので，精神的にも肉体的にも両面からとても負担が軽減されている。小学校の場合は算数が入っていますが，例えば小学校の先生の中には，図画工作が苦手とか，体育が苦手とかいらっしゃると思うので，そういう授業を教える先生が入ることについて，何かお考えありますか。学校によっては教科担任制を実施している学校も一部あると聞いていますので，ご意見いただきたいと思います。
■鈴木昭和小学校長
　業務改革の中で，本校においても教科担任制度について毎年のように話題に上っております。今年話題に乗っているのは，国語と算数を高学年でチェンジしていく。いくつかの小学校でもやっているところがございまして，例えば，桔梗小学校の６年生も，国語と算数をチェンジしてしまう。そうするとすごく教材研究の時間にゆとりが生まれて，そして特化することで自分の専門性を高めて，他のクラスに持っていくことによって非常に効果的です。ただ，その場合の問題点としましては，やはりできるならば，同じようなレベルの先生同士での交換ということ。そのように話題にはなっていますけれども，他の図工，体育，音楽などは，この規模の場合，普通に（学級担任が）やっております。

■藤井委員
　やはりそういう外部から専門の先生方がもっと入ると，よりいいということでしょうか。
■鈴木昭和小学校長
　大歓迎です。今ＡＬＴの方が２人いらっしゃっておりまして，そして外国語専科の先生が今年配置されまして，もう全然授業のレベルが違っています。やはり専門的な方がどんどん入ると，子どもたちにとって素晴らしいことだと思います。
■藤井委員
　わかりました。
■工藤市長
　少子化の影響で，学校の児童生徒の１校当たりの人数が減ってきてますでしょう。３校統合してある程度の規模にしてきていますけれども。私のような団塊の世代は，的場中学校は１学年１５クラスぐらい，全道一のマンモス校で，そうすると全教科その学校に全部の先生，教科の先生を配置できた。今みたいな状況になってくると，なかなか１つの学校に，１教科１人でもすべての教科で配置できない。いろんな工夫が必要な時代にもうすでに来ているだろうと思います。何校かを受け持つような先生が出てくるのか，どういう方法があるのか。それと，函館方式なら函館方式でいいけれども，先生の配置はなかなか市教委ではできないかもしれないが，試行的にいろんなことを検討して取り組んでいく必要があると思います。
　私，先ほど昭和小学校さんの取組を聞いていて，資料の４ページで，昭和小学校のチームとしての業務改善，必要に応じてセクションの枠を取り払い，積極的に外部と連携し，人材を活用する。今の段階で，こういう状況なんだと。やっぱり学校が遅れていると。先生方の責任じゃないですよ，もちろん。例えば市役所でセクションの枠を取り払うというのは，もう１０年か２０年くらい前の行政改革の話です。どこかのセクションが忙しいと，違うセクションから人材を行かせる。部の中でそこに人を集中させる，などやっています。昨日，新型コロナウイルス感染症の啓発チラシを飲食店に回って配ったのも，保健所はもう手いっぱいなので，保健所以外の部局の職員が６０人くらいでやっている。なので，そういうことが今なのかと。
　しかし，学校というところは，私が知っている限り，先生方と児童生徒のこの環境を考えると，なかなかセクションを取り払うのもまた難しいのか，簡単にはいかないような気もします。それから，外部の関係機関，人材の活用については，今まではどちらかというとある程度，何か専門を持っている人がやっていたけれども，単純な業務に関して，委託やアルバイト，パートなど臨時的なものを配置するのがいいのではないか。そういうものをもっと市役所と同じように活用していくことはできるような気がして聞いていました。
　もう１つ，自分の意見を最初に言って申しわけないが，資料の７ページにおいて，夏季休業中の活動の学校開放についてですが，これは新型コロナウイルス感染症の影響で，子どもたちが離れて，話しちゃいけない，給食のときも向かい合っちゃいけない，などあれもダメこれもダメとテレビで見ていて，非常に子どもたちがかわいそうで，それで，予算をつけるので何か企画してやったらどうかと。夏休み中のプール開放でも，何でもいいからやった方がいいですよといって二百数十万円くらい予算がついて，その中で喜んでいただいて，良かったなと思います。あの頃はまだ子どもの感染に非常に注意を払っていたけれども，今は子どもが感染しても重症化することはない，ほとんど無症状に近い，逆にインフルエンザより

も子どもにとっては，まだ重症化することが少ないことと，こうすれば守れる，感染しないことがだいぶわかってきているので，ＩＣＴなどのいろんなことも大事ですけれども，子どもたち同士のふれあい，交流，あるいは先生との交流，あるいは外部との交流，様々なことについて，今は外部との交流はなかなか難しいかもしれませんが，校内での人と人との交流は，それを欠かすと，非常に子どもの成長にとってマイナスになりかねないと思いますので，中には家庭で様々な状況におかれている子どもいるはずですので，そのような意味で，学校での活動を工夫して，体を動かすことや触れ合うことなど，様々なことを工夫してもらえればなというのは強く感じていました。

それから，１０ページのスクール・サポート・スタッフの活用について，なるほどと思って見ていましたが，採点などはいずれＡＩにやらせる時代がきっと来るだろうなと。ロボットにやってもらう，任せられる，そういう時代が来るし，今の技術でもやろうと思えばやれるような気がします。どこかそのような機能のあるものを開発しているところに頼めば，採点ぐらいはやって，ロボットだから，単に〇×のもの，文章のもの，それに対して赤で手直しも，ロボットがすることが十分できてくるのではないかと思って聞いていました。

それから先生がやっていた消毒作業を，代わりにスクール・サポート・スタッフがやると。用務員さんが何をやっているか知らないけれども，用務員で手が回るのであれば，今，管理会社などへの委託に変えてきているでしょう。その中の仕様を変えて，例えばその消毒作業を，仕事の中に入れてしまえば，お金払えばいいわけですから。なぜ階段の手すりの消毒をスクール・サポート・スタッフがやっているのか，ちょっと理解できません。こんなことを先生がやっていたのかということにも驚きますが，そうではなくて，用務員あるいは委託でいる清掃業者がやるのか。市役所の階段を市役所の職員は，誰も清掃をしません。全部委託業者が清掃をやっています。病院もそうです。函館病院もそうですし，施設もほとんどそうです。それが，学校だと先生がやっていると。変だなと思って聞いていました。その点については，改められるのではないかなと思っています。徐々に直営の用務員から管理会社に用務員業務を頼むようになってきているので，委託の仕様の中にそういうものを入れてしまえばいいわけです。確かに，そのような共通の部分だけではなくて，学校の教室は，私の小学校，中学校の時代は，みんな当番で掃除を当たり前のようにやっていましたが，考えてみればそれが当たり前なのかどうか。教育の一環として掃除をするということであれば，必要性があると思いますが，経費削減のために子どもにやらせているのであれば，それは今の時代考える必要があるのではないかと思います。また，子どもに掃除してもらうために先生がそこで立って指導をするとなるとなおさらですよね。それだって，清掃の企業に頼めばやってくれるのではないでしょうか。そこに常駐しなくても，学校が終わってから，例えば廊下から教室から掃除機かけて，モップで拭いて，モップも毎日やらなくたっていいわけですから。お金は多少かかるかもしれませんが，そういうことを工夫してやっていかなければ，進んでいかないのではないかと思います。ずいぶん遅れているといったら失礼ですけど，学校とは変なところだったなと。私が学校にいたのは６０年以上も前ですけれども，５０年，６０年経って，教育が進歩していないのではなく，学校の実態は何にも変わっていないのだなと今話聞を聞いて，資料見て思いました。印刷作業も昔は確か給仕さんに頼んでいた。ほとんど今の先生は知らないかもしれません。用務員でもなく，学校事務員でもなく，お茶入れたりする，そういう人たちが先生から印刷を依頼して，昔は手刷りでした。そういう覚えがあります。少しずついろんなことできると思います。また１１ページの清掃・消毒作業に

ついて，それだけで１クラス１５分，手すりの水回りに３０分かかっているわけです。工夫してやってもらえればと思います。

今まで当たり前のようにやってきたことを変だよなと思える力といいますか，思わなきゃ前に進みません。私はもともと何でも，これ変じゃないのか，あれ変じゃないのかと思っていて，市長になっても変わらないです。だからいろんなことを変えていく，改めさせていますが，当たり前という認識になってしまうと，働き方改革は進んでいかないと思います。行政でいうと行財政改革，学校も行財政改革，改革を，今までやってきたことを全て見直すという，そういう必要があるのではないでしょうか。このコロナ禍でいろんなこと見直さなきゃいけないように，同じように見直すことが先生方の働き方改革，業務改善にもつながっていく気がしています。

他にありますか。はい，小葉松委員。

■小葉松委員

今の市長の話と被ると思いますが，先ほど教育長から，学校の先生方は何でも自分でやりたがるとのお話で，それはなぜだろうと，お話を聞きながら思っていましたが，やはり初任の時に先輩から教えられたとおりに，ずっとそれが当たり前だと思われているからなのか，学校という場所がそうしなきゃいけないのは，何かストレスがかかるようなものなのか，そのあたり鈴木校長先生はどうお考えですか。

■鈴木昭和小学校長

表現的に言葉足らずがたくさんあって申しわけなかったのですが，小学校は朝８時から先生方は勤務しています。そうしてすぐほとんどの先生方がクラスに入ります。６時間目まで終わるともう１５時です。戻ってくるのは１５時半頃。正式な退勤時刻は本校は１６時４０分です。そうすると打ち合わせの時間です。表面的な部分で，改善できるとことは直していきますけれども，やはりどうしても先生方の中には甘えてはいけない，自分なりのやり方を確立する，そういった部分が進んできた，未だにそうであるということは否めないと思います。ただ，考え方はどんどん変わってきておりまして，ここに書いている以上に，先生方はチームでという意識をするようになってきました。本音で話し合える場面をきちんと設定して，本当に市長がおっしゃられたように，根幹の部分から全部見直すということを普通として，そうやって一歩二歩進み始めたなと私は思っています。

■工藤市長

さっき私がいったようなことは，雑用ではないですが，本来の教育内容ではないことに無駄な力を注ぐよりは，その時間は業者などにでも業務を依頼して，先生方が子どもの教育に集中できる環境をつくってやることが大事だなと。あれもこれもとなったら先生方かわいそうだなと思いましたので，あえて申し上げました。

はい，神田委員。

■神田委員

今，話を聞いていて，私も外部人材だなとちょっと思いました。南本通小学校でコミュニティ・スクールのコーディネーターをしております。学校にはほとんどいます。４時間，５時間ほぼ，毎日とはいきませんが，週４日程度います。最初の頃は，先生方も私に頼むのをためらっていまして，頼む内容としては地域の方を交えた交流ですとか，本当に小さいことですが，家庭科のミシンのサポートとか，本当にありとあらゆるものですが，最初先生たちは本当に言っていいのかなという感じでした。ですが，コーディネーターを，学校から依頼

されてやって２年くらいになりますけれど，先生方も頼るということを覚えてくださって，今では私に直接電話がかかってきて，「神田さん，こういうことしたいのですけど。」という相談を受けて，その先生と打ち合わせをしながら，教頭先生や校長先生にお話を持って行くということを続けております。私が経験した中では，先生方も本当にお忙しくて大変なところを，先生の手の届かない，あきらめてしまっている場所を，私や一緒にボランティアとしてやってくださっている地域の方や保護者の方が一緒になって，学校を支えてやっていくということは，すごく学校が活気づきますし，私たちも子どもたちの笑顔が見られることはすごく楽しいですし，先生との距離も近くなるというのも，保護者としてもすごく有り難いなと思っているところです。鈴木校長先生がおっしゃったように，外部人材の大切さというのは私も身をもって感じておりますし，コミュニティ・スクールはどんどん推進していただいて，地域の方も保護者も元気になって活性化していくことが見えてきていますので，とてもいい取組だなと思います。

■工藤市長

はい，他にありませんか。

今神田委員からお話しがありましたが，昔は，学校教育というものは，学校に丸投げで，学校の先生になんでも任せてしまっていて，先生というのはとても責任が重すぎる存在になっていたきらいがあるなと思います。昔は地域，地域で先生も忙しかったろうけれども，やはり尊敬されていた。今は尊敬されてないとは言いませんが，昔はやはり学校の先生，校長先生の尊敬の度合いは強かったです。親がみんな中卒や高卒の中，その当時の先生方は師範や大学を出ていたので，そういうこともあったのかもしれませんが，今そういうところが取り払われてしまってなかなか難しい時代だなと思います。父母が要求しているものが昔と変わらないとすれば先生方たまったものじゃないと。ある意味少しビジネスライクな運営といいますか，そういう割り切った中でのものがあってもいいような気がしています。あれもこれも，しがらみの中で日本の教育が旧態依然とした形で行われているのであれば，少し効率性をもって，ただもちろん，優しさというかな，貧しい子もいるし，ついていけない子もいるから，そういうものもということではないですが，割り切るところは割り切っていく必要があるのかなと思います。そのためには父母の理解が必要だから，コミュニティ・スクールの会議などできちっと学校の方針を理解してもらって，協力してもらうことから必要になってくる。今までは，父母も学校で何をやっているかわからなかったから，参観日だけ見に行ってモデル的な授業，作られた授業見せられて帰ってきた。それはその日飾ってやっている授業だから，昔はですね。今はどうかわからないけれども。そういうことだけではなくて，もっと積極的に関わっていくとしたら先生方はやりやすくなってくるんじゃないかなと思います。父母の中にもいろいろクレーマー的な人だとか，昔と違って増えてきている気がしますが，そういうものを先生方だけで抑えるのではなくて，まわりの同じ学校に子どもを送っている父母の皆さんの協力も得ながらご理解を得ながら，進めていく必要があるのかなと思います。働き方改革についてはいいですか。

はい，ＩＣＴの活用と，外部人材の活用，働き方改革について，いろいろ広く意見をいただきまして，事務局の方でまとめていただいて，学校運営に役立ててもらって，ものによっては予算要求してもらって表していくということになる。今日は，北中と昭和小の校長先生にご報告いただいて，この２校だけに予算増やすというわけにはいかないけれども，全校になんらかの形で生かされていけばいいなというふうに思います。

では，用意されて議題については終わらせていただきます。その他で何か皆さんご意見ありますか。ありませんか。特になければ，それでは，私の仕切りはこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました

３　閉会

■大室教育政策課長

以上で本日の協議事項は，すべて終了いたしました。

これをもちまして，令和２年度函館市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

■終了

午前１１時３０分